

# Gomi Genryo G. G つうしん

今年もすでに1か月が経過しました。あたたかい春がやってくるまであと少し。体調管理に注意しながら、引き続きごみ減量に取り組みましょう！さて、今回も話題が盛りだくさん。ぜひ最後まで読んでください。

Vol. 46  
発行 2016/2/5

■ トイレでできるごみ減量！小さなことから始めてみよう！

## トイレトーパーの芯は資源です！！

みなさんはトイレトーパーの芯をどうしていますか？そのまま「もえるごみ」として捨てていませんか？浜松市環境部が入居している「鴨江分庁舎」のトイレでは、1月から以下のように表示しています。



トイレトーパーの芯は「雑がみ」です。これは、もえるごみに出せる紙ごみの一つですが、資源物として、市民の皆様が地域の資源物集団回収や、市や民間の回収拠点に出すことができます。また、事業所や工場では他の「古紙類」とあわせて出す（売却）ことができるのです。

### ☆期待される効果☆

- ① もえるごみの削減
- ② 収益金が地域活動の一部に
- ③ 循環型社会実現の第一歩

【参考】ごみ減量推進課試算

- ① 1世帯あたり年間使用個数 92個
  - ② トイレトーパー芯重量 約8グラム
  - ③ 1世帯あたり年間発生量 736グラム
  - ④ 浜松市全世帯数 327,848世帯
- 浜松市全世帯で取り組めば・・・③×④÷  
241トンの「もえるごみ」削減効果！？

これらの効果は、分別している人から人への拡大が期待できます。ごみ減量を進めるには1人1人の「しっかり取り組もう！」という意識が重要です。

トイレトーパーの芯は一例です。どんな小さなことでも構いません。皆様の身近にあるものから取り組んでみましょう！きっとそれが大きな効果につながるはずです。



「ごみ減量」は、多くのヒトの地道な努力により達成されます。  
シリーズ第4回は、ごみ減量をはじめとする地球環境保全活動を展開している『NPO法人エコライフはままつ』理事の高根美保さんにお話を聞きました。

「まさに運命的な出会いですね。では、今まで活動している中で最も印象に残っていること

高根さん(以下高)きつかけは、出張で訪れた仙台駅での『ワケルくん』との運命的な出会いです。行政(仙台市)がこんなにユニークなキャラを作って楽しく「ごみ減量」をPRしていることに衝撃を受けました。同時に、西部清掃工場内に環境啓発施設が併設され、本NPO法人が運営することになりました。これを機に自分達も楽しみながら「ごみ減量PR」をすることになりました。



「ごみ減量推進課 高林・下位(以下こ) 本日はありがとうございます。高根さんは長い間、市民の皆様にごみ減量を訴えてきました。そもそも「ごみ減量」に興味を持つようになったきっかけは何でしょうか?」

「ごみ減量への熱い思い」

モノにも人があり、  
ものにも気持  
ちを大切に

ごみ減量、このヒト!

高根美保さん  
NPO法人エコライフはままつ  
理事・事務局長  
浜松市環境審議会委員

「言われてみれば、家庭でも使われずに眠

高「『食器のリユース事業』です。ひよんなことから最終処分場の延命化を考えた時、埋立に直結するものとして食器に注目しました。リサイクルショップなどに話を聞くと、引き取り手が一番少ないのが食器で、リサイクルもできないために、処分困るという話でした。捨てれば埋立てに回ってしまいますし...」

「食器に新たな使い道を」

「現在、力を入れている活動は何でしょうか?」



もったいない市って?  
商品の持ち込みは無料。  
100円以上の募金協力で  
1人10点まで持ち帰り  
ができる。

高「それは、『もったいない市』が開催できた事です。捨てるのはもったいない衣類や日用品を出したい人と、それらを持ち帰りたい人が集うリユースの場を提供したいという想いで企画しました。しかし、「余ったものはどう処分するのか」「持ち込みできるか否かの基準が利用者に受け入れられるのか」という意見もあり、なかなか思い通りにはいきませんでした。多くの課題を解決して、『もったいない市』が形になった時は喜びはひとしおでしたね。」

(環境啓発施設「えこはま」にて)

高「最後は、市内各所に自分から車で出向き、ごみ減量にあまり関心のない皆様にも楽しく取り組んでもらえるよう情報発信をしていきます。自分に合うごみ減量について一緒に考えてみませんか?」

「自ら現場に出向いて新規開拓」

「おやつの時間にリユース食器を利用している子供達の様子(可美幼稚園)」



色を変えれば多種多様なキャンドルが作れて見た目もオシャレ!

高「『もったいない市』と同様で『もったいない食器市』を開催し、毎回約一トンの食器をリユースしています。食器市で残った食器も施設やイベントに貸出をしたり、手作りキャンドルの講座を開講し、容器として利用しています。これから一人暮らしをお考えの学生さんも多いと思うので、リユース食器の利用を考えてみませんか?お気に入りが見つければお譲りできますよ。」



# 突撃！学校インタビュー

1月14日（木）、聖隷クリストファー中学校で『雑がみ回収』が行われました。

活動の現場を訪ね、生徒会長 下田代（しもたしろ）さん、山田先生にお話をうかがいました。



## 雑がみ回収を始めたきっかけは??

本校は全校で6クラスという小さな中学校ですが、家庭や地域に根差した活動を大事にしたいと思っています。

そのような中で、公立小・中学校で実施している雑がみ回収を知り、本校の生徒たちの意識の啓発につながればと市の協力（雑がみ分別袋やフレコンバッグの提供）を得て雑がみ回収を行うことになりました。

平成26年度から年1回の雑がみ回収に取り組んでいて今年で2回目になります。（山田先生）



## 雑がみってなんだろう??



雑がみ分別袋は10月末に全校生徒（152名）に配付して、冬休みの間に雑がみを集めてもらうよう生徒にお願いしました。「雑がみとは何か」について、事前にチラシを配付したり、全校集会で見本を見せたりして周知を行いました。（山田先生）

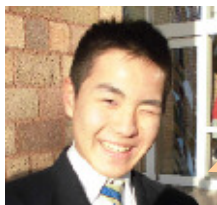
回収日当日は、自転車通学の生徒だけでなくバスや電車通勤の生徒も雑がみをいっぱい詰め込んだ「雑がみ分別袋」片手に登校していました。（写真 左）

この取組がきっかけとなり、次につながることを期待しています。

## どうやって回収しているの??

生徒会役員の立ち合いのもと、登校する生徒たちは雑がみ分別袋に詰め込んだ雑がみをフレコンバッグにあげます。（写真右）お菓子やティッシュの箱、トイレトペーパーの芯など多くの雑がみが集まりました。ティッシュ箱のビニールも取り外してあり、分別精度の高さが伺えます。

この日に回収された雑がみはフレコンバッグ一杯分約90kgを集めることができました。



事前に雑がみについて理解していましたが、実際に分別すると少し難しかったです。今日はたくさんの雑がみが集まってよかったです。これからも資源のリサイクルに取り組んでいきます。（下田代さん）



# 「全庁一丸となった省エネ推進」で受賞！！

浜松市には、庁舎、スポーツ施設、ごみ処理工場など 1,300 を超える施設が市内に点在し、これらの施設から排出される温室効果ガスは、市全体の排出量の約 3% を占めています。本市は、市内有数の温室効果ガスの排出事業者であることから、独自の「浜松市役所温暖化対策マネジメントシステム」を構築し、率先して排出削減に取り組んできました。今回、受賞した省エネ大賞は、経済産業省が後援し、国内の企業・自治体等などの優れた省エネ推進の事例や省エネ性に優れた製品及びビジネスモデルを表彰するもので、本年度は自治体で唯一、浜松市の取組が受賞しました。

## <活動のポイント>

- エネルギー管理体制の構築
- 省エネ改修の推進
- 省エネ教育の実施
- 省エネパトロールの実施



1月27日（水）に東京ビッグサイトにて表彰式が行われました。



大きな成果！

市職員が一丸となって取り組んできた成果じゃ！！この勢いでごみ減量にも取り組んでほしいのじゃ！！



## ■ 27 年度家庭系「もえるごみ」12 月速報値をお知らせします！！

# 家庭系もえるごみ 12,248トン (Δ283トン)

## 平成27年4月からの1人1日当たり平均 493グラム

新目標439グラム!

今年度もあと3カ月じゃ！引き続き減量に協力ください！



※27 年度からは浜松市一般廃棄物処理基本計画に基づき推計人口を用いて算出しています。

■ 家庭系もえるごみ月別推移

(単位:トン)

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	11,982	12,058	12,555	12,273	11,505	11,760	11,607	11,090	12,248			
26年度	11,835	12,351	11,689	12,505	11,714	12,222	11,508	10,339	12,531	10,848	9,166	11,623
前年度比	147	Δ 293	866	Δ 232	Δ 209	Δ 462	99	751	Δ 283			

